

第2回はるえ支部社会福祉協議会委員会のまとめをお伝えします！

はるえ支部社協 2次計画ふりかえりニュース

【発行】
坂井市社会福祉協議会
はるえ支部
坂井市春江町江留中 10-15-1
(春江総合福祉センターいちい荘内)
TEL : 0776-51-4545
【発行月】令和2年5月

2月25日（火）に第2回はるえ支部社協委員会を開催しました。
「第2次 はるえ支部住民福祉活動計画」に基づいた取り組みについて、17名の委員さんがグループに分かれ、その進捗をふりかえるとともに見えてきた課題や今後取り組みたいことなど活発に意見を交わしました。

第2次 はるえ支部住民福祉活動計画

スローガン

思いやり 広がる地域に 幸せの輪

人財発掘・育成

- 1 リーダーを一人にしないでおこ
- 2 リーダーを探そう
- 3 関わりを持とう

つながりづくり

- 1 新しいつながり作りについて考えよう
- 2 現在のつながりを強化しよう
- 3 日常的な関わり合いを大切にしよう

場づくり

- 1 集いの場を充実させよう
- 2 集いの場を調査しよう
- 3 集いの場を考えていこう

見守りの強化

- 1 福祉マップや災害時要援護者支援制度を浸透させよう
- 2 支援に必要な関係者のネットワークを充実させていこう
- 3 見守りネットワークを広く周知していこう

人材発掘・育成

- 民生委員・児童委員、福祉委員の担い手が不足。
- 老人会の会員減少。会の名称を変えても大きな効果はない。人が集まらなければリーダーも出てこない。
- リーダーが相談する相手がいない。
- 前区長・民生委員・福祉委員等のOBを活動に巻き込む。
- 魅力ある活動かどうか、人が集まるかどうかの鍵となる。
- まち協への参加は、地域の情報が得られ、人材についても発掘や育成につながる活動がある。
- 担い手自らは手を挙げにくいので、地域で「あの人は退職された」等の情報を得て声かけをしていく。

場づくり

- 「トライアルサロン」を契機に区でのサロン開催につながった。
- さわやか会（老人クラブ）が年数回の活動があり地区を超えた交流がある。
- お買い物弱者に対する支援として移動販売車を調整。販売車が来る場所に人が集まり、新たな交流の場ができた。
- サロン、通いの場、ラジオ体操を開催、継続して実施する事で、区内の情報が入ってきている。
- 区民館開放日を開設し、福祉委員が当番で管理。特別に行事をしなくても、集まれる環境を作ることでも場が出来る。
- 自主組織（介護者のつどい等）づくり。当事者どうしが集まり、自主的につながれるよう、小さな集まりから始めている。
- 全地区で早朝ラジオ体操を実施して、交流の場を作った。
- 高齢者サロンに限らず、地域の中に様々な居場所をつくる。

つながりづくり

- 障がい者当事者が居住の地区の役員になることで、生活や存在を知ってもらえた。
- 助け合う気持ちが住民のなかで生まれている。世の中が出会いを求めている証拠である。
- コミセン活動で親子や家族での参加を取り入れた。
- 区の常会や役員会等に民生委員、福祉委員として出席している。
- ふくしの会の活動を通じて顔見知りや横のつながりができた。
- 個人支援に関わる中でケアマネ等の福祉関係の知り合いが増えた。
- まち協活動と連携しながら横のつながりを広げる活動を行う。
- 区長会やまち協の会議の場で小地域福祉活動の情報提供を行う。
- サロンメニューや出前（講師）の情報などを各地区に紹介しあい、共通の話題で地区間のつながりをつくる。

見守りの強化

- ふくしの会が発足し、民生委員と福祉委員等の連携が強化できた。
- 福祉マップを毎年更新して対象者を見守る体制ができてきた。
- 高齢者等徘徊 SOS ネットワークで徘徊捜索や通報に事業所として協力。専門職の目で地域を見ることが出来る。
- 区長も見守り組織の一員とし、見守りに参加という規則を作った。
- 夏は水、冬はマスクの配布で、高齢者宅を福祉委員が訪問。得た情報を地区ごとに民生委員や他の福祉委員と共有した。
- 圏域地域ケア会議にて地域の支援者が医師や介護職などの専門家と同じ場で地域の話が出来、情報が得られる機会ができた。
- 区の中で連携し合える関係づくりを図る。（区の会議への出席）
- 老人家庭相談員や身体障害者相談員が地域の中での連携を意識。
- 横のつながりを意識しながら、見守り体制を強化していきたい。



活発なご意見をいただきありがとうございました。
皆様方の“想い”を次期計画につなげます。